

### III 資料



1. 專門家業務予定進度表



項目	1984		1985		1986		1987		1988		1989			
	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4
1. 訓練基本データ収集のための調査研究				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
2. 教材の開発・作成				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
3. 訓練技法				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
4. 訓練計画の策定等				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
5. プロジェクト開始に当たっての準備作業				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
6. その他リーダーの指示事項				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←

(注) 当科の業務については、各科のC・Pについても必要に応じ教科の開発・作成、訓練技法等に関し助言・指導を行うため、その詳細計画の策定及び実施については、各科専門家及びC・Pとの調整が必要である。

点線は予定、実線は実施を示す

項 目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1. 訓練基本データ収集のため の調査・研究	←											
2. 訓練計画の策定等に関する 助言・指導			←				→			→		
3. 訓練技法				→								
4. 教材の開発・作成				→								
5. その他リーダーの指示事項	←											

点線は予定, 実線は実施を示す

業務予定進捗表

昭和59年12月31日

ペルーSENATI職業訓練センター 職業訓練科

氏名 海前 嘉明

項目	10月	11月	12月	進捗率	通	要
I 訓練基本データ収集のための調査・研究						
1. 企業における訓練ニーズ把握調査						
1-1 調査表の作成	→	→	→			
1-2 調査実施のための打合せ、調整	→	→	→			
1-3 調査実施（企業訪問）	→	→	→			。調査全般に関し、A.D.Bとの緊密な連携が必要。
1-4 調査結果分析及びまとめ	→	→	→			
2. 訓練技法（学科）に関する調査						
2-1 調査表の作成	→	→	→			
2-2 調査実施のための打合せ、調整	→	→	→			。任国外旅行のため企業訪問一時中断
2-3 調査実施（訓練生及び指導員対象）	→	→	→			
2-4 調査結果分析及びまとめ	→	→	→			。訓練生対象のみ実施
II その他リーダーの指示事項						

点線は予定、実線は実施を示す

昭和59年12月31日

氏名 海前 嘉明

職業訓練科

ベル-SENATI 職業訓練センター

業務予定進捗表

項目	1 月	2 月	3 月	進捗率	要
I 訓練基本データ収集のための調査研究					
1. 企業における訓練ニーズ把握調査					
1-1 調査実施(企業訪問)	----->	----->	----->	100%	
1-2 調査結果分析及びまとめ		----->	----->	50%	
2. 訓練技法(学科)に関する調査					
2-1 調査実施(指導員対象)	----->	----->	----->	100%	
2-2 調査結果分析及びまとめ (訓練生及び指導員両分)		----->	----->	25%	
II 訓練計画策定等に関する助言・指導					
III その他リーダーの指示事項	----->	----->	----->		

点線は予定, 実線は実施を示す



業務予定進捗表

昭和60年3月31日

ベルSENATI職業訓練センター 職業訓練科 氏名 海前嘉明

項目	4月	5月	6月	進捗率	通	要
I 訓練基本データ収集のための調査・研究						
1. 企業における訓練ニーズ把握調査 結果分析及びまとめ	→					
2. 訓練技法(学科)に関する調査結果、分析及びまとめ	←					
II 訓練計画策定等に関する助言・指導						
III 訓練技法に関する助言・指導						
IV 教材の開発・作成に関する助言・指導						
V その他リーダーの指示事項	←					

点線は予定、実線は実施を示す

業務五箇年計画予定進度表

昭和60年1月5日

ペルー-SENATI職業訓練センター 機械(I)科

氏名 山見 豊

項目	1984		1985		1986		1987		1988		1989
	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年
1) 実習場関係											
2) 機械関係 (供与機材)											
3) 訓練関係											
イ) カウンタパート訓練											
・ 訓練計画											
・ 全般指導											
・ 教材作成											
ロ) 訓練実施											
4) その他, リーダー, SENATI指示事項											

点線は予定, 実線は実施を示す

項 目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1) 実習場関係	実習場レイアウト作成											
2) 機械関係 (供与機材)	定置プラン作成											
	定置・検査						使用指導					
3) 訓練関係	イ) カウンタパート訓練 ・ 訓練計画 ・ 全般指導 ・ 教材作成	現行訓練検討										
		訓練計画作成、指導・助言										
		訓練全般指導助言										
ロ) 訓練実施												
	マニユアル・教材作成指導・助言 (養成訓練と定型成人訓練)											
4) その他・リーダー、SENATI指示事項												

点線は予定、実線は実施を示す

業務予定進捗表

昭和60年4月 日  
氏名 山見 豊  
機械(I)科  
ペルーSENATI職業訓練センター

項目	1月	2月	3月	進捗率	通 用
1) 実習場関係					
① 実習場レイアウト私案作成				100%	
② レイアウトSENATI側と協議				100%	プスターマンテラ氏との会議 2/6, 2/7, 2/14 3/12
③ 改築指示助言				100%	3/12, 3/21
2) 機械関係(供与機材)					
① 定置プラン私案作成				100%	
② プランSENATI側と協議				100%	
③ 移動・定置開始				100%	3月中旬, 実習場の中壁一部とりこわし開始
3) 訓練開始				0	人員補充が未だされていない
① カウンターパーパート訓練計画作成					
② 現行訓練調査				80%	3/6~3/19 訓練課長タラベラ氏による年計説明
③ 訓練計画私案作成				50%	訓練内容について一応終了
④ 教材開発計画				0	電気科NCコントローラー(X, Yプロッタ)の操作方法, 修理
⑤ カウンターパーパート訓練				50%	機械科主任と, 実習場改造等について打合せ リマSENATI本部校調査 3/25~3/28 アレキサンダー周知企業調査
4) その他				100%	2/6ピール工場, 2/8コココーラ工場, 3/13アルバカ工場, 3/18毛布工場

点線は予定, 実線は実施を示す

項目	4月	5月	6月	進捗率	要
1) 実習場関係					
① 電気配線関係の決定 (照明を含む)	-----				
② 配管(エア・水)関係の決定	-----				
③ 改築・指示・助言 (レイアウト修正を含む)			-----		
2) 機械関係(供与機材)					
① 旋盤5台の定置と検査		-----			
② 平面研削盤の定置と検査			-----		
3) 訓練関係					
① カウンターパート訓練計画作成	-----				
② Pre Aprendizajeの訓練計画作成			-----		
③ 教材開発計画	-----				
④ 旋盤マニュアル西訳作成			-----		
⑤ 平研マニュアル西訳作成			-----		
⑥ カウンターパート指導	-----				
4) その他					

点線は予定、実線は実施を示す

業務五箇年計画予定進捗表

昭和60年1月5日

ペルーSENATI職業訓練センター 自動車整備科 氏名 田代 治 徳

項目	1984		1985		1986		1987		1988		1989		
	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
新実習場	機械配置計画												
	工 事												
	機 材 設 備												
供与機材	使用方法指導助言												
	マニュアル西訳												
訓練計画	現行訓練の検討												
	計画作成助言指導												
訓練全般	教材の作成助言指導												
	その他助言指導												

点線は予定, 実線は実施を示す

昭和60年業務予定進捗表

昭和60年1月5日

ペルーSENATI職業訓練センター

自動車整備科

氏名 田代 治 徳

項	目	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
新実習場	機材配置計画	---											
	工事												
	機材設置												
供与機材	使用方法指導助言												
	マニュアル西訳												
訓練計画	現行計画の検討	---											
	計画作成・助言指導												
	教材作成助言指導												
訓練全般	その他の助言指導												

点線は予定、実線は実施を示す

ベル-SENATI 職業訓練センター

自動車整備科

氏名 田代 治 徳

項 目	1 月	2 月	3 月	進捗率	要 要
新 実 習 場	空気および電気配線計画の作成および決定 計画の決定、配管・配線図の作成完了および油脂庫の配置決定	空気および電気配線工事 自動車検査ライン機材配線前準備工事	空気および電気配線工事	100%	機材の配線計画は昨年中に完了 セナティ側とも同意 空気配管工事、電気配線工事の製図は完了しているが、工事にはいまだ着手していない。 材料の購入後、電気科が工事を担当するようである。 機材到着前には完了するよう申し入れてある。
				50%	
現 行 訓 練 計 画 の 検 討	教室、実験室、工具室等の工事完了、検査ライン掘付穴の工事・床のレベル出し・フロア類の足場工事進行中 Pre Aprendiyaje, Aprendiyaje, P.T.S. (regular)			80%	SENATI-SUR の現行計画等については当該編課長より再三にわたり説明を受け、資料等も入手した。 3月23日～28日までマ中央センターへ出張し、中央での訓練状況等について視察した。
				0%	1月中はカウンタパートの休暇、また訓練開始後も夏時間という事で半日の勤務体制であったこと。 3名の指導員のうち1名日本への研修、1名が夜間訓練ということで、カウンタパートが現訓練にかかりきりであったこと。 以上のことにより、時間がとれず教材等の作成はできなかつた。 指導員1名の増員を申し入れてありその方向で進行中である。 ニーズ調査は実際に工場・実習場(7社)を見学、実習場主任・就職している卒業生からの意見を聞いた り、アンケート調査を依頼した。
訓 練 全 体	電子燃料噴射装置についての説明書 主席指示事項およびSENATIからの依頼事項 アレキサー周辺の工場にもむき訓練に対するニーズ調査			0%	

点線は予定、実線は実施を示す



項	目	4 月	5 月	6 月	進捗率	通	要
新実習場	工事	検査ライン配置前準備工事・空気、電気、配線工事					
	供与機材設置 運転転		第1次供与機材の据付け、試運転				
訓練計画	現行計画等 検討	細部の検討					
	計画作成 助言・指導		7月開校へ向けて訓練計画の作成 (Prc Aprerdiyajc)				
訓練全般	教材作成 助言・指導	7月開校へ向けての教材開発 (Tecnologica 学科)					
	その他助言・指導等	出席指示事項および SENATI からの依頼事項					
	その他						

点線は予定、実線は実施を示す



## 2. 第1回合同委員会議事録



第 1 回 日本 - SENATI 技術協力に  
関する合同委員会議事録

1984年11月8日、10時アレキパ市の SENATI 企業診断課会議室において、SENATI 中央審議会長及び本委員会議長、ファン・ピセンテ・カブレリソ・ゴンザレスにより、以下の各委員の参加をえて、日本 - SENATI 技術協力に関する委員会が開催された。

SENATI 側：	南部審議会長	フェルデナンド・オビエド・ハーラ
	中央事務局長	シロ・ゴンザレス・デ・サバラ
	南部事務局長	ホセ・ブスタマンテ・チャーベス
	南部職業訓練部長	ビリビリオ・トーレス・トバル
	企業診断課長	クレメンテ・エスカランテ・セバージョス
	アレキパセンター 職業訓練校長	アンヘル・タラベラ・バルデス
	アレキパセンター 職業訓練補佐	カルロス・デルガード・フローレス

日 本 側：	国際協力事業団リマ事務所長	笹 野 暉 樹
	首席顧問	美 浦 重 俊
	専 門 家 ( 職業訓練 )	海 前 嘉 明
	( 業務調整 )	安 井 龍
	( 一般機械 )	山 見 豊
	( 自動車整備 )	田 代 治 徳

開 会

1. 委員会は南部審議会長の歓迎の言葉で開催された。同会長は、プロジェクトの円滑な運営のため、各議題がよく審議され、かつ良き結論が得られるよう期待する旨述べた。
2. 日本国政府を代表して、美浦首席顧問は、この第1回合同委員会の開催を喜び、日本人専門家とペルー人カウンターパートのすぐれた協力がなされ、かつ技術移転が SENATI にとって有益であることを望むと述べた。
3. 最後に、中央審議会長は、簡潔に、本日ここに参加でき各議題に関して意見の交換ができることに満足の意を表し、そしてこの会議の終りに採択される合意が最も適切なものであることを望むと述べた。

## 会議経過

### 第1部

南部事務局長より、第1及び第2議題に関して説明がなされた。

南部事務局長は、1974年以降の日本の技術協力の主要成果について簡単に説明を行った。次に本年度の協定の進捗状況、5ヶ年の全体計画及び、1985年度業務計画について説明した。説明は広範かつ詳細にわたった。周知徹底のため印刷物が各委員に配布された。

委員会議長は各委員に対し、上記第1及び第2議題に関する意見を求めた。各委員の意見は次の通りであった。

a) 中央事務局長は、今年度の協定の進捗状況に関して、他の国々の技術協力と比較対照するため、日本人専門家がやっている技術プログラムの内容を SENATI 中央の訓練指導課に送るよう示唆した。

同時に、今までカウンターパートが受けてきた研修に関していくつかのケースにおいて同じことの繰り返しがあったことを指摘し、最後に、日本人専門家が技術移転に用いる指導技法は今後 SENATI 中央にある指導員養成所との間で調整されるようにとの意見を述べた。

b) 南部職業訓練部長は、上記の指導プログラムの内容は、SENATI が通常の指導において採用しているものと同じであり、その変更は指導課題だけであり指導技法はそのままである。それゆえ、このことに関して、SENATI 中央の指導課の承認を受ける必要はなかったと報告した。

次に、研修に関して以前から異なった専門分野の研修員に対して同じ種類のカリキュラムが採用されていた。その外、かつて日本人専門家は、カウンターパートの持っている知識に関する調整に基づきある研修内容についていくつかの変更を提案したこともあった。当該研修は、集団研修コースであったが、現行の協定では個別研修だけであるので、当個別研修においては日本における指導員の研修期間をも含め、我々の希望に基づき、研修プログラムが実施されるであろう旨述べた。

c) 首席顧問は、上記研修に関し、協定には研修計画が明記されているが、これには各年度3名の研修員を望んでおり、又、この中には高級研修は含まれないよう日本側に対し要請しているところであると述べた。

d) 南部事務局長は、日本人専門家がカウンターパートに行っている技術移転は、また中央の指導員養成所の指導員にも有益であるので、中央事務局長の要請に応えることは何ら不都合はないとの意見を述べた。

e) 首席顧問は、南部でカウンターパートに訓練技法を伝えている日本人専門家と仕事をするため、指導員養成所 (IFPI) の何人かの指導員が南部に来るには、来年の4月以降

が、より都合がよいであろう旨示唆をした。

## 第2部

委員会議長は、首席顧問に対して、「実習場の整備及び機械設備の設置」「専門家に対するカウンターパートの配置」並びに「事務員等の配置」の各項目に係る第3、第4及び第5議題についての説明を依頼した。

首席顧問は、議題1に関して、日本人専門家とそのカウンターパートが常に同じ実習場内で学科指導や業務調整、計画作成等の上で協力できるよう、教室、材料倉庫、工具室、指導員及び専門家の部屋が実習場内に作られるべきであるとの意見を述べた。

また、現在の各実習場には防塵の設備がないので、新たに機械を設置するに当たっては、機械を悪くするような摩耗腐食の原因要素から機械を保護するため、この設備が必要であることさらに、既に作成されている配置図に合わせて機材設備の配置のために、いくつかの仕切り壁を撤去する必要があること、また電子科の供与機材を設置するため現在ハニーウェル社製コンピューターが占めている電子科実習場の場所を空けることを要請すると述べた。

最後に、首席顧問は、マトラニ港に到着する供与機材の税関からの引取りを迅速に行うため SENATI 中央における事務を簡素化し、SENATI 南部にその引取り権限を移すよう提案した。これはかつてリマ空港あるいは、カヤオ港に着いた機材の中には紛失したものもあって、日本人専門家の業務に少なからず困難をもたらしてきているが、現在までその措置がとられていないためであると説明した。

ここまでの説明に対する意見は以下の通りである。

- a) 中央審議会議長は、実習場の整備、機械の設置及び防塵装置の取付けは必要なことであるので、1985年度予算においてこれらに対する財源措置をとるよう同意している旨述べた。
- b) 中央事務局長は、実習場整備に必要な資金及び資材を見積るため及び、予定されている工事がコスト高のため、遅れないようにするため工事実施予定を詳細に計画すべきである旨補足意見を述べた。

また、ハニーウェル社製コンピューターについては、かつて電子科で働いていた日本人専門家の意見によると、このコンピューターは古く、その機能状態は不経済であるとのことであったが、電子科の指導員は当該コンピューターが実習に使えるかどうかを調査してみるよう示唆した。

- c) 南部審議会議長は、もし特定の通関業者に引取りを請負わせるなら機材の引取のための官僚的な手続きを避けることができること、そのためには関係省庁により要請され承認された機材には変更はないであろうから、ただ中央審議会議が協定上の全供与を受入れることに同意すればよいこと、通関業者はこの同意でもって機材をただちに引取ることができ、船

積書類及び無税措置決定書により必要な経路を通じ、公式に手続きがなされるであろうと述べた。

首席顧問は、日本人専門家に対するカウンターパート達が常に本来業務をしなければならないため、技術移転を受ける時間を十分に持たずにいる現状に鑑み6名の専門家が常時カウンターパートと一緒に働けるよう、さらに6名の指導員の増員方を要請した。

この点に対する各委員の意見は次のとおりであった。

- a) 中央事務局長は、日本人専門家が技術移転のみのため1日8時間働くことはできないので、各専門家が作る時間表にしたがって各カウンターパートがそれに対応できるようにし、その時間帯には各カウンターパートは養成訓練生の訓練又は在職者の訓練に選ばれないようにすればよいと述べた。
- b) 訓練部長は、各日本人専門家は各担当の実習場で仕事をすべきであり、それ故、各カウンターパートは、多くの訓練と経験を有し、計画に基づき専門家が必要な時間帯には技術移転を受けられるため部下の勤務時間を調整する責任を持った各各実習場の責任者であるべきだと述べた。
- c) 南部事務局長は、協定に基づき対応すべき優先順位を有する科は自動車整備、溶接及び一般機械の各科であり、それらの科にはカウンターパートを1名増員とし、電気科と電子科については可能な範囲内で技術移転ができるように実習場責任者と協力して計画を作ればよいと述べた。
- d) 中央事務局長は、まだ欠員となっているこれから派遣される専門家は、新しく進んだ技術について訓練が行えるようしっかりした指導を受けた人であること、特に溶接専門家はカウンターパートに対し、一般のガス溶接や電気溶接だけでなく、特殊溶接の訓練ができること、機械専門家は、NC旋盤や金属材料試験、品質管理等についてもカウンターパート訓練ができること。又、電気及び電子専門家についても同様細かい指導をしておいて貰いたいとの提案を行った。

議題5の秘書の採用について議長は、既に要請により臨時雇用の形で採用することを予定しており、又運転手についても同様であるので、多くの説明は必要ない旨述べた。

### 第3部

議長は南部審議会議長に、議題6のプロジェクト運営の為の予算について説明するように要請した。

南部審議会議長は、今までに人的及び物的面について検討し、種々な必要を満たすためには財源措置が必要であり、それ故1985年の予算には、総額2億5000ソールズが人件費、消耗品費(含原材料費)、雑費、設備品等の為に必要であるとの意見を述べた。



## 合 意 事 項

委員会は以下の点に合意した。

1. SENATI 南部事務局とその管理職に対し、南部事務局長によって明確に説明のあった日本との技術協力協定により実施している活動に祝意を述べた。
2. 技術協力のための日本国政府と SENATI の間で署名された協定の一部をなす 5 ヶ年事業計画線表を承認する。
3. SENATI 南部管理者とプロジェクト日本側関係者の間の緊密な連携のもと作成された 1985 年度業務計画を承認する。
4. 業務実施計画表に述べられている実習場の整備、機械・設備の設置及び、防塵装置の設置のための必要な財源を、1985 年 SENATI 南部の歳出予算の投資項目に計上する。
5. SENATI 中央審議会に対し、協定に含まれている総ての供与機材の受入れ引取りを行うための同意と、通関業者を使うために必要な文書を、SENATI 南部に送付するよう要請する。
6. 自動車整備科、溶接科及び一般機械科に対し、常時、技術移転が行えるよう各実習場に定員を 1 名増員すること、また電気科及び電子科では各主任指導員は、プロジェクト長と首席顧問の協力を通し、訓練生指導の責任なく日本人専門家と一緒に技術移転のため働けるように必要な時間配分計画を作成する。
7. 主要なカウンターパートを以下のとおり任命する。

プロジェクト長	ホセ・プスタマンテ・チャーベス
訓練部長	ビルヒリオ・トーレス・トバル
訓練校長	アンヘル・タラベラ・バルデス
自動車整備科	サルバドール・モントーヤ・グティエレス
機 械 科	オルヘル・ゴンサレス・サンチェス
電 気 科	フレディ・エレラ・リエンド
電 子 科	アダルベルト・ソトマヨール・デルガード
溶 接 科	オズワルド・アラウホ・カステージョ
総 務 部 長	エディルベルト・トーレス・ムリーリョ

8. 日本人顧問団は、日本に専門家を要請する場合、各々の専門家の有する知識及び経験が、カウンターパートの技術訓練の必要性を満たすため、SENATI 側の要望に沿うよう配慮する。
9. 南部事務局に対し、秘書 1 名、運転手 1 名を採用する為、1985 年度の歳出予算に必要な財源の確保を委託する。

10. 南部事務局に対し、日本－SENATI技術協力協定の円滑な遂行のため、業務計画に係る必要な財源を1985年度の歳出予算に組み入れることを委託する。

#### 閉 会

委員会議長は、各議題に関する討議が終了したので、国際協力事業団リマ事務所長に対し、SENATI南部職業訓練センターにおける日本－ペルー技術協力プロジェクトの調整に関する第1回合同委員会を閉会する挨拶を要請した。

笹野暉樹国際協力事業団リマ事務所長は、今回の会議に招待されたことを中央審議会長に感謝するとともに委員会に対し、特に南部事務局とその管理者に対し、SENATIと日本政府との間の技術協力であるセンタープロジェクトの発展において得られた着実な成果につきお礼を述べた。

第1回合同委員会は18時終了した。

#### (出席者署名)

笹 野 暉 樹	ファン・ピセンテ・カブレリソ
美 浦 重 俊	フェルデナンド・オビエド・ハーラ
海 前 嘉 明	シロ・ゴンサレス・デ・サバラ
安 井 龍	ホセ・プスタマンテ・チャーベス
山 見 豊	ビルヒリオ・トーレス・トバル
田 代 治 徳	クレメンテ・エスカランテ・セバージョス
アンヘル・タラベラ・バルデス	カルロス・デルガード・フローレス

CRONOGRAMA DEL PLAN OPERATIVO DE CINCO ANOS  
 PROYECTO DE COOPERATION TECNICA DE PERU Y JAPON (SENATI-SUS) (5ヶ年間の事業計画線表)

Item	年 Ano		1984		1985		1986		1987		1988		1989				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
建築 Arquitectura	Reforma 改造																
	機材配置計画 Planeamiento de la Ubicacion																
	機材検収 Chequeo																
機械 Maquinaria	機材据付 Instalacion																
	Estudio del Programa Vigente 現行計画検討																
	Programacion 計画作成																
訓練 Preparacion del Programa	養成訓練及び在職者 Aprendizaje y PTS 訓練 (主コース) (Cursos Regulares)																
	在職者訓練 (その他のコース)																
	PTS (Otros Cursos)																

Item 項目	年 Ano		1984		1985		1986		1987		1988		1989	
	月 Mes	日 Dia	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Estudio del Metodo de Ensenanza Vigente 現行訓練方法調査・検討														
Capacitación 訓練実施														
Estudio de la Técnica Vigente 技術技能の現状調査・検討														
Capacitación 訓練実施														
Beca 研修														
Preparación y Material d Ensenanza 訓練教材の作成														
Distribución y Contratación de Contrapartes Peruanas カウンタパートの配座														
日本人専門家派遣														
Distribución de Expertos Japanese														

M : Mecánica General (I y II) JM: Jete de la Mision EL: Electricidad AP: Aprendizaje  
 M.I : Mecánica General (Torno) CO: Coordinador ER: Electrónica PT: PTS (Todos los cursos)  
 M.II : Mecánica General (Mantenimiento) EV: Entrenamiento A: Mecánica Automotriz PR: PTS (Cursos Regulares)  
 CM

REUNION DEL COMITE DE COORDINACION DEL CONVENIO SENATI-JAPON

ACTA N° 1 - SESION DE TRABAJO

En Arequipa, siendo las diez horas del ocho de noviembre de mil novecientos ochenticuatro, en la sala de reuniones de Diagnóstico Empresarial, se reunió el Comité de Coordinación del Convenio SENATI-JAPON, bajo la presidencia del señor Ing° Juan V. Cabrerizo Gonzáles, Presidente del Consejo Nacional del SENATI y del Comité, con la asistencia de los siguientes miembros: por el SENATI, el Sr. Ferdinando Oviedo Jara, Presidente del Consejo Zonal Sur; el Ing° Ciro Gonzáles de Zavala, Director Nacional; el Ing° José Bustamante Chávez, Director Zonal Sur; el Ing° Virgilio Torres Tovar, Jefe de Capacitación Zonal; el Sr. Clemente Escalante Zevallos, Jefe de Diagnóstico Empresarial; el Sr. Angel Talavera Valdez, Jefe de la Unidad Operativa de Arequipa y el Sr. Carlos Delgado Flores, Adjunto de la Unidad Operativa de Arequipa. Por el Grupo de Asesoramiento Japonés: el Sr. Teruki Sasano, Representante Residente de la Oficina de JICA en Lima y los miembros que conforman la Misión Japonesa: Ing° Shigetoshi Miura, Jefe de la Misión Japonesa; Ing° Yoshiaki Umimae, Experto en Entrenamiento Vocacional; Lic. Shigemi Yasui, Coordinador de la Misión Japonesa; Ing° Yutaka Yamami, Experto en Mecánica General; y el Ing° Harunori Tashiro, Experto en Mecánica Automotriz.

APERTURA DE LA REUNION

1. Se abrió la sesión con las palabras de saludo y bienvenida por el Presidente del Consejo Zonal Sur, quien agradeció la presencia y participación de todos los miembros que conforman el Comité, deseando que los puntos de la Agenda por tratarse tengan un feliz término para la buena marcha del Proyecto.
2. En representación del Gobierno del Japón, el Jefe de la Misión Japonesa, expresó su complacencia por esta primera reunión del Comité, e hizo votos porque el trabajo de la Misión y los Contrapartes Peruanos tengan una excelente coordinación y que la transferencia tecnológica sea de provecho para la Institución.

3. Finalmente, el Presidente del Consejo Nacional manifestó, en breves palabras, su satisfacción de estar nuevamente en Arequipa y poder intercambiar ideas de acuerdo a los puntos de la Agenda y que al final de dicha reunión los acuerdos que se tomen sean los más adecuados.

#### DESARROLLO DE LA REUNION

Primera Parte .- Estuvo a cargo del señor Director Zonal Sur, quien hizo la exposición de los puntos 1 y 2 de la Agenda.

El Director Zonal Sur a través de su charla, hizo una breve referencia histórica de la Cooperación Técnica Japonesa desde 1974, destacando los principales logros obtenidos. Luego expuso el avance del Convenio durante el presente año, el Plan General que comprende 5 años y el P' Operativo para 1985. La exposición fue en forma amplia y detallada y se distribuyó a los miembros del Comité, para una mayor información, los documentos impresos respectivos.

El Presidente del Comité solicitó a los participantes sus comentarios sobre los puntos tratados en la exposición. Las intervenciones fueron las siguientes:

- a) El Director Nacional, con referencia al avance del Convenio del presente año, sugirió que los contenidos programáticos de enseñanza que se están realizando con los expertos, sean remitidos al Area Académica de la Dirección Nacional, para contrastarse con el trabajo que realizan otros Convenios de Cooperación Técnica.  
Asimismo, mencionó que las becas que se han venido otorgando, en algunos casos han sido repetitivas para los instructores; y por último expresó que la metodología empleada en la transferencia tecnológica de los expertos, esté coordinada con el Instituto de Formación Profesional de Instructores.
- b) El Jefe de Capacitación Zonal Sur informó que los Contenidos Programáticos de Enseñanza son los mismos que utiliza el SENATI en su instrucción regular; las mejoras que se operan a estos Contenidos son solamente cambios de Proyectos de Instrucción sin dejar de realizar las operaciones -

////////.....

de cada serie metodológica, por lo que no era necesario solicitar al Area Académica de la Dirección Nacional la aprobación correspondiente. Referente a las becas otorgadas, en muchos casos se ha llevado el mismo tipo de Curriculum pero para diferentes instructores de la especialidad; y, en otros, los expertos han gestionado algunos cambios en la capacitación específica en base al diagnóstico que los mismos expertos realizan de los conocimientos de sus contrapartes. Este tipo de becas se denominan "Becas de Grupo", pero que para el Convenio actual se han contemplado solamente "Becas Individuales", en las cuales el programa de capacitación se realiza a solicitud nuestra incluyendo el tiempo mínimo que deben permanecer nuestros instructores en el Japón.

- c) El Jefe de la Misión manifestó, sobre este asunto, que en el Convenio existe un Plan de Becas, el mismo que contempla tres becas por año y que está gestionando que las Becas para Directivos y Supervisores no estén incluidas dentro de las becas antes indicadas.
- d) El Director Zonal opinó que la transferencia metodológica que realiza el experto a su contraparte puede ser también beneficiosa para los instructores del Instituto de Formación Profesional de Instructores, por lo que no habría inconveniente para atender el pedido del Director Nacional.
- e) El Jefe de Misión indicó que a partir de Abril del próximo año, previo plan de trabajo, sería la fecha más conveniente para que algunos instructores del IFPI pudieran constituirse en la Zonal a fin de trabajar con los expertos que estarían utilizando la metodología de capacitación a sus contrapartes.

Segunda Parte .- El Presidente del Comité invitó al Jefe de la Misión Japonesa para la exposición de los puntos 3, 4 y 5 de la Agenda. que comprenden los siguientes aspectos: adecuación de talleres y montaje de equipos, contrapartes para expertos y personal de apoyo.

El Jefe de la Misión Japonesa expuso, en relación al primer aspecto, que en cada taller deben existir ambientes para sala de instrucción, almacenes para ma-

////////....

teriales y herramientas y sala de instructores y Expertos, a fin de que éstos no tengan que salir del mismo para el desarrollo de los cursos teóricos, la coordinación y proyectos que se deben elaborar entre los expertos y los contrapartes peruanos.

Los talleres actuales no cuentan con protectores de polvo y se requiere la instalación de dichos protectores por cuanto al montarse los equipos deben estar preservados de todos los elementos corrosivos que pudieran deteriorar los.

Hizo notar también, que en cada taller deben eliminarse algunos muros divisorios a fin de que la instalación y montaje sea de acuerdo a los planos de distribución que se han preparado.

Asimismo solicitó que el actual ambiente que ocupa la Computadora Honeywell sea desocupado para instalar en dicho ambiente equipos del grupo ocupacional de Electrónica.

Finalmente expuso que se agilice en Lima y se autorice a la Zonal Sur para que el retiro de la Aduana de los equipos donados que deben llegar vía Mata rani se efectúe de manera ágil y rápida; y, no suceda lo que hasta la fecha viene siendo una gran dificultad cuando los equipos han llegado al Aeropuerto o Terminal Marítimo del Callao, causando serias dificultades a la Misión, por cuanto en muchos casos existen pérdidas que no han podido ser repuestas.

Hasta aquí los comentarios fueron los siguientes:

- a) El Presidente del Consejo Nacional opinó que toda la adecuación de talleres, el montaje de equipos y la colocación de protectores de polvo eran necesarios y que por lo tanto estaba de acuerdo que se haga la provisión económica del caso, previo Plan de Inversiones, en el Presupuesto de 1985.
- b) El Director Nacional acotó que este cronograma de trabajo debe estar detallado en los períodos que deben construirse a fin de prever los recursos necesarios y que no sufran retrasos que encarecerían las obras programadas. También indicó que, con referencia a la Computadora Honeywell, se haga un estudio por los instructores de la especialidad para darle algún uso en la instrucción, debido a que la opinión de los expertos japoneses que anteriormente trabajaron en Electrónica fue que este computador era muy antiguo y su puesta en funcionamiento era antieconómica.

////////.....



c) El Presidente del Consejo Zonal Sur expuso que el trámite burocrático para sacar los equipos de la aduana podría obviarse si se contrata los servicios de una Agencia especializada para lo cual sólo es necesario que el Consejo Nacional, a través del Acuerdo correspondiente, acepte la donación por todo el Convenio, por cuanto los equipos solicitados y aprobados por los Ministerios correspondientes no serán variados; con dicha Resolución la Agencia de Aduana podría sacar de inmediato los equipos y se estaría tramitando, a través de los canales respectivos con los documentos de Embarque oficialmente, la Resolución de Liberación respectiva.

El Jefe de Misión Japonesa continuó con la segunda parte de su exposición, referente a los contrapartes para los expertos, solicitando la contratación de seis instructores a fin de que puedan trabajar en forma permanente con los seis expertos en las diferentes especialidades, debido a que los instructores de la Zonal tiene una carga de trabajo permanente y no les permite tener tiempos libres para la transferencia tecnológica, motivo del Convenio.

Sobre este planteamiento, las opiniones fueron :

- a) El Director Nacional expuso que un experto no puede trabajar las 8 horas solamente dando transferencia tecnológica, por lo que de acuerdo a la programación que cada Experto haga de su tiempo se le proveerá del contraparte para trabajos específicos y que dicho instructor no estaría ligado en ese momento a tareas de instrucción de Aprendizaje o P.T.S.
- b) El Jefe de Capacitación informó que los Expertos deben trabajar en los talleres y que por lo tanto sus contrapartes deben ser los encargados del taller, por ser el personal de mayor capacitación y experiencia, que tienen la obligación de programar a sus instructores para poder captar una transferencia tecnológica apropiada en los momentos que, de acuerdo a la programación, el experto requiere.
- c) El Director Zonal opinó que para los talleres a los cuales se tiene una prioridad de atención a través del Convenio como son: Mecánica Automotriz, Construcciones Metálicas y Mecánica General, se le incrementará un contraparte y para los talleres de Electricidad y Electrónica se haga una programación con cada encargado de taller, a fin de que la transferencia tecnológica esté dentro de los alcances previstos.

////////.....

d) El Director Nacional propuso que los expertos que aún faltan incorporarse al Proyecto, tengan una orientación definida que posibilite la capacitación en un mayor nivel de conocimientos de la especialidad y preferentemente de especialidades nuevas y de avanzada tecnología, por lo que sugirió que el experto de Soldadura capacite a su contraparte en Soldaduras Especiales y no en las tradicionales de Oxiacetilénica y Eléctrica. Los expertos de Mecánica General, sean para Control Numérico y Laboratorio Metal-Mecánico de Ensayos y Control de Calidad, respectivamente. Igualmente deben detallarse las orientaciones de los expertos de Electricidad y Electrónica.

Con referencia al punto 5 de la Agenda, sobre la contratación de una Secretaria para la Misión, el Presidente del Comité propuso que no era necesario mayores comentarios, por cuanto el pedido de la Misión Japonesa estaba previsto atenderlo a través de un contrato de servicios; de igual forma se haría para el chofer que también están solicitando.

Tercera Parte .- El Presidente del Comité solicitó al Presidente del Consejo Zonal Sur la exposición del punto 6 de la Agenda, referente a los recursos para la ejecución del Proyecto.

El Presidente del Consejo Zonal Sur expuso que hasta este momento se habían tratado aspectos de los recursos físicos y humanos y que era necesario hacer las provisiones financieras que posibiliten el cumplimiento de los requerimientos, por lo que se permitía plantear que en el Presupuesto de Inversiones de 1985 debe hacerse una previsión por un monto estimado de S/. 250'000,000 (Doscientos cincuenta millones de soles) debiendo la Dirección Zonal presentar el programa respectivo, especificando los montos para Remuneraciones, Bienes, Servicios e Inversiones, debidamente calendarizados.

#### ACUERDOS TOMADOS

El Comité tomó los siguientes Acuerdos :

1. Felicitar a la Dirección Zonal Sur y sus Directivos por el trabajo que se viene realizando con el Convenio de Cooperación Técnica de Japón, el mismo que fue expuesto en forma precisa por el Director Zonal Sur.
2. Aprobar el Cronograma de Ejecución del Plan Maestro de cinco años que forma parte del documento suscrito entre el Gobierno de Japón y el SENATI para la

//////.....

Cooperación Técnica.

3. Aprobar el Plan Operativo para 1985, el mismo que fuera estructurado en estrecha coordinación entre Directivos de la Zonal y miembros de la Misión Japonesa.
4. Incluir en el Presupuesto de Egresos de 1985 de la Zonal Sur, en el Rubro de Inversiones, la cantidad necesaria para la adecuación de talleres, montaje e instalación de equipos y protectores de polvo para los talleres, los mismos que deben estar detallados en un Cronograma de Ejecución.
5. Solicitar al Consejo Nacional para que tome el Acuerdo correspondiente para la aceptación total de los equipos del Convenio y remita dicho documento a la Zonal para que se utilicen los servicios de un Agente de Aduana.
6. Para las especialidades de Mecánica Automotriz, Construcciones Metálicas y Mecánica General, se incrementará un contraparte por cada taller, con el objeto de realizar una permanente transferencia tecnológica; y, en los talleres de Electricidad y Electrónica los instructores encargados de los mismos harán la programación necesaria para tener disponibilidad de contrapartes para trabajar, sin carga de instrucción, con los expertos japoneses en los períodos que así se establezcan a través de una permanente coordinación entre el Jefe de Proyecto y el Jefe de la Misión Japonesa.
7. Acreditar como Contrapartes principales a las siguientes personas:

- Jefe de Proyecto	Ing° José Bustamante Chávez
- Jefe de Capacitación	Ing° Virgilio Torres Tovar
- Jefe de la Unidad Operativa	Sr. Angel Talavera Valdez
- Mecánica Automotriz	Sr. Salvador Montoya Gutiérrez
- Mecánica General	Sr. Olger Gonzáles Sánchez
- Electricidad	Ing° Fredy Herrera Liendo
- Electrónica	Ing° Adalberto Sotomayor Delgado
- Construcciones Metálicas	Sr. Oswaldo Araujo Castillo
- Apoyo Administrativo	CPC Edilberto Torres Murillo
8. La Misión Japonesa cuando realice el pedido de expertos, éste deberá estar de acuerdo a las orientaciones que la Institución requiere en cada uno de los talleres, a fin de que sus conocimientos y experiencias puedan satisfacer nuestras necesidades de capacitación de los contrapartes.

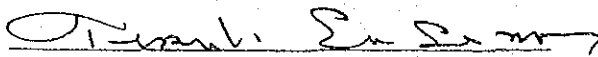
//////.....

9. Encargar a la Dirección Zonal la provisión de los recursos necesarios, en el Presupuesto de Egresos para 1985, para contratar los servicios de una Secretaria y un chofer.
10. Encargar a la Dirección Zonal, incluya en el Presupuesto de Egresos de 1985 los recursos necesarios para el normal funcionamiento del Convenio SENATI-Japón en lo que concierne al Plan Operativo respectivo.

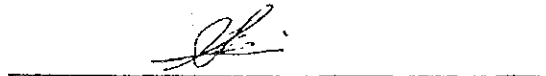
CONCLUSION DE LA REUNION

Habiéndose agotado hasta aquí el estudio de los puntos de la Agenda, el Presidente del Comité invitó al Representante Residente de la Oficina de JICA en el Perú, para que clausure la Primera Reunión de Trabajo del Comité de Coordinación del Proyecto de Cooperación Técnica de Perú y Japón en el Centro de Entrenamiento Vocacional del SENATI Zonal Sur.

El Sr. Teruki Sasano agradeció la invitación del Presidente del Consejo Nacional y luego expresó su felicitación al Comité de Coordinación en general, y, en particular, al Consejo Zonal Sur y Directivos de la Zonal, por los positivos logros en el desarrollo del Proyecto Central en el ámbito de la Cooperación Técnica entre el SENATI y el Gobierno de Japón, acto con el cual dió por concluída la Primera Reunión del Comité de Coordinación, siendo las 18.00 horas.



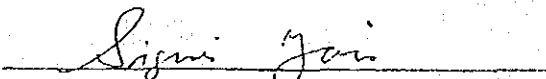
SR. TERUKI SASANO



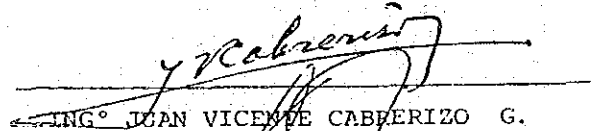
ING° SHIGETOSHI MIURA



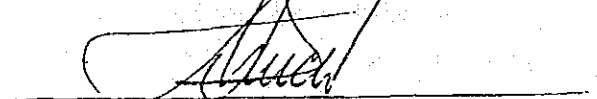
ING° YOSHIAKI UMIMAE



LIC. SHIGEMI YASUI



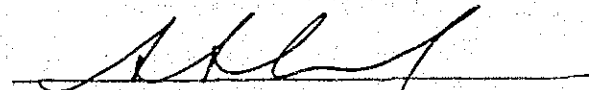
ING° JOAN VICENTE CABRERIZO G.



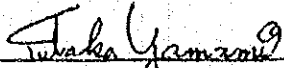
SR. FERDINANDO OVIEDO JARA



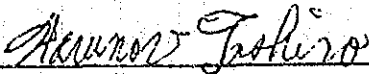
ING° CIRO GONZALEZ DE ZAVALA G.



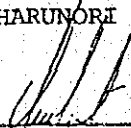
ING° JOSE BUSTAMANTE CHAVEZ



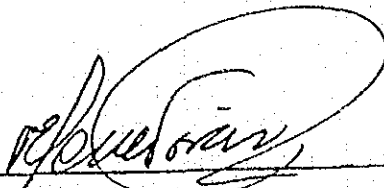
ING° YUTAKA YAMAMI



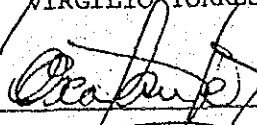
ING° HARUNORI TASHIRO



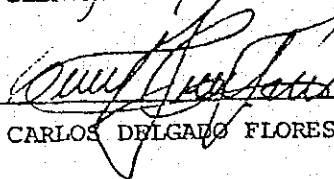
SR. ANGEL TALAVERA VALDEZ



ING° VIRGILIO TORRES TOVAR



SR. CLEMENTE ESCALANTE ZEVALLOS



SR. CARLOS DELGADO FLORES

mvm/.

CRONOGRAMA DEL PLAN OPERATIVO DE CINCO ANOS  
 PROYECTO DE COOPERATION TECNICA DE PERU Y JAPON (SENATI-SUS) (5ヶ年間の事業計画表)

Item	年		1984		1985		1986		1987		1988		1989												
	月	Mes	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5						
建築 Architectura	Reforma 改造		M.A.																						
	機械 Maginaria	機械配置計画 Planeamiento de la Ubicacion		M.A.	EL.	ER.		CM.																	
		機械検収 Chequeo			M.A.	EL.	ER.		M.A.	CM.	EL.	ER.													
		機械据付 Instalacion			M.A.	EL.	ER.		M.A.	CM.	EL.	ER.													
計画の作成 Preparacion del Programa	Estudio del Programa Vigente 現行計画検討		AP.		PR.					PO.															
	Programacion 計画作成									AP.	PR.	CM.	EL.	ER.	AP.	PR.	CM.	EL.	ER.	AP.	PR.	CM.	EL.	ER.	
訓練 (訓練生) Capacitacion (Estudiantes)	養成訓練と在職者 Aprendizaje y PTS 訓練 (主コース) (Cursos Requiare)									M.I	M.II	A	EL	ER											
	在職者訓練 (他のコース) PTS (Otros Cursos)																				M.I	M.II	A	EL	ER

Item 項目	1984		1985		1986		1987		1988		1989	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Estudio del Metodo de Ensenanza Vigente 現行訓練方法調査												
Capacitación 訓練実施												
Estudio de la Técnica Vigente 技術技能の現状調査												
Capacitación 訓練実施												
Beca (c/p受入れ)												
Preparación y Material d Ensenanza 訓練教材の作成												
Distribución y Contratación de Contrapartes Peruanos カウンターパートの配備												
日本人専門家派遣												
Distribución de Expertos Japanese												

M : Mecánica General (I y II) JM: Jete de la Mision EL: Electricidad AP: Aprendizaje  
 M.I : Mecánica General (Torno) CO: Coordinador ER: Electrónica PT: PTS (Todos los cursos)  
 M.II : Mecánica General (Mantenimiento) EV: Entrenamiento A: Mecánica Automotriz PR: PTS (Cursos Regulares) PO: PTS (Otros Cursos)  
 CM





### 3. 1985年度業務計画案



## 1985年度 業務計画(案)

SENATI - 南部職業訓練センターに  
係るペルー・日本技術協力プロジェクト

### 第 2 期

アレキープ 1984年11月

#### 1. はじめに

SENATI - 南部職業訓練センターにおけるペルー・日本技術協力プロジェクトに係る1985年度業務計画(案)は、ペルー及び日本側関係者双方の共同作業により作成された。

当計画案における重要かつ優先度の高い点は、到達すべき個々の目標を定めたことであり、当該目標との関連で実施すべき活動の方向を決定しなければならないということである。

又、活動計画作成には、5ヶ年暫定実施計画の1985年度分を資料として採用した。

実施活動の各々について詳細に記述しようとしたが、その内容のいくつかは、総合的なものであり、事業を方向付ける特定のプランをも必要とするので、詳述できなかった。

業務計画の内容は、次の通りである。日本政府とSENATI間の技術協力経緯・目的・活動プログラム、資金源及び人的資源・スケジュール、及び評価の概略。

#### 2. 経緯

日本政府とペルー南部SENATIとの技術協力は1974年1月、両者の技術協力協定の調印により開始され、現在に至っており、10年10ヶ月間継続されていると云える。

当該期間は2期に分けられる。

第1期：1974年開始、1984年5月終了。個別派遣専門家を通しての協力体制の中で実施されたもので、専門家13人が別々の時期に2～3年滞在した。

第2期：ペルー政府の要請に基づき、1984年5月31日から開始された。次に詳述する目的を達成するための期間5年の技術協力プロジェクトである。

#### 3. 目的

3.1 現在及び将来の開発に関し、ペルー南部の若者及び労働者の訓練水準の向上。

- 3.2 南部の工業及び他の経済活動の必要性に対応するため、SENATI 南部の既存能力の拡充。
- 3.3 技術的知識の近代化及び付与並びに、訓練プロセスの一環として産業安全衛生規範の促進。
- 3.4 一般機械、自動車整備、溶接、電気及び電子個々の職種毎に、養成訓練及び在職者訓練プログラムの整理統合及び改善。
- 3.5 技術協力を通じ、可能なあらゆる近代的手段を活用して、ペルー側カウンターパートの為に、恒久的かつ統一的な技術移転システムを確立し、下記事項を達成する。
- 教育プログラムの科学的再構成。
  - 学科及び実習用マニュアル作成。
  - 技術的助言・指導の付与。
  - 各実習場の機械設備の活用及び維持に係る助言・指導の付与。

#### 4. 活 動

目的案達成のため1985年において次の活動を遂行しなければならない。

##### 4.1 実習場の整備

###### 4.1.1 改 築

- 全実習場に係る共通事項
  - ・ 教室1, 指導員室1, 資材倉庫1, 及び工具室の整備。
- 自動車整備実習場
  - ・ 実験室, 倉庫, 工具室, 指導員室, 教室及び便所の建設。
  - ・ エアコンプレッサ置場及び実習場外における洗車場の建設。
- 一般機械実習場
  - ・ 現在, 資材置場として使用している部屋の合併のため, 壁の撤去。
  - ・ 塵埃侵入予防のため, 遮蔽装置の設置。
- 電気実習場
  - ・ 塵埃侵入予防のため, 遮蔽装置の設置。
- 電子実習場
  - ・ 工業制御実習場の塵埃侵入予防のため, 遮蔽装置の設置。
  - ・ 新規コンピュータ機器設置のための環境整備。
- 溶接実習場
  - ・ 現在, 自動車整備実習場として使用している部屋の合併のため, 壁の撤去。

#### 4.1.2 機械及び設備の整備

##### 4.1.2.1 設置場所の決定

次の実習場に関し、作業場所を特定し、新期設備能力を決定するとともに新規の機械及び設備並びに残すべき既存機械の設置に係るレイアウトの作成。

・自動車整備 ・電気 ・一般機械（整備及び旋盤） ・電子

##### 4.1.2.2 受領及び検収

1985年に受領する日本政府供与の機械設備の受入れ。当該機械設備は開梱の後、数量、部品、状態をチェックし、各々備品台帳に記録する。

##### 4.1.2.3 設 置

レイアウトにより指定した場所への機械設備の配置及び組立て。必要な場合基礎工事、電気及びその他の配線、試験運転等。

自動車整備及び一般機械（整備及び旋盤）の機械設備設置には、調達メーカーより、技術者の来訪が予定される。

#### 4.2 養成訓練生及び在職労働者の訓練

##### 4.2.1 活動計画作成の指導助言

養成前訓練、養成訓練及び在職者訓練（主コース）用のプログラム及び、当該カリキュラムの構成の再検討及び分析を基に、各専門毎の活動プログラムを作成。この場合、活動計画の実施に係る日本人専門家とペルー側カウンターパートの配置を、個々のケースにつき詳述しておかねばならない。

##### 4.2.2 訓練の実施

日本人専門家は、ペルー側カウンターパートと共に下記の点に留意し、養成訓練及び在職者訓練（主コース）のための活動実施に、積極的に参加するものとする。

職 種	養成訓練(*)	労働者/コース(**)
一般機械（整備）	1 2	3 6
” （旋盤）	1 2	3 6
自動車整備	1 2	3 6
電気	1 2	3 6
電子	1 2	3 6
計	6 0	1 8 0

注：溶接は、1986年以降の協力の中で行なわれるので、ここでは考慮に入れてない。

(\*) 定員は2年間のものである。

(\*\*) 職種別に3コースあり、労働者12人のグループを対象に、各コース90時間で、3コース連続して進められる。

#### 4.3 ベルー側カウンターパートの訓練

この活動は、2期に分けられる。

4.3.1 1984年開始の第1期は、85年2月28日に終了するもので指導方法、作業方法及び養成訓練及び在職者訓練で使用されている機械設備に関し、総合的及び各職種毎詳細に、現在利用されている技法及び技術・技能の検討を実施しなければならない。

4.3.2 1985年3月1日に開始予定の第2期は、ベルー側カウンターパートの本格的な訓練の実施である。これらは事前に定めたプログラムに基づき、個人的に、且つ1又は、講義、セミナーを通してシステムテイクに実施する。

ベルー側カウンターパートの訓練に関し特有のことは、日本での研修である。当該研修のためには、第1段階で明確となってニーズを考慮すべきこと、又、後の関係手続実施のための候補者に対する語学（日本語且つ1又は、英語）の研修及び、日本での研修を実施するために必要な諸手続の開始である。

注：現在、下記の指導員が、日本において研修を受けている。

レオニードス・マンリケ、一般機械 1984.4.1～1985.3.30

エディルベルト・オラサバル " } 1984.10.25～

フランシスコ・オルティス 自動車整備 } 1985.8.3

#### 4.4 教材の作成

この活動は、2種類の作業の実施よりなる。

##### 4.4.1 機械設備のオペレーションマニュアルの作成

各職種について、該当するオペレーションマニュアルを作成せねばならないが、手順等を系統化するために、基本として次の点を含めたものとする。

- ・機械の機能
- ・一般的及び、個別的特徴
- ・操作順序の展開（作業と運転）
- ・図解と設計略図
- ・故障に関する説明
- ・操作者と設備の安全に関する一般的注意事項
- ・メンテナンス基準

この作業の対象としては、日本政府から供与され、本業務計画の実施期間中に据付けられる機械及び設備のみである。

#### 4.2.2 インストラクションマニュアルの作成

既存マニュアル(UDAS)の再検討とは別に、不足しているマニュアルの作成を優先し、次に、既存のものの改訂を行う。この活動は、恒常的なものであり、本業務計画のためには、全ての専門分野を含む個々の作業プログラムを作成しなければならない。

### 5. 資 源

5.1 資金：日本政府及び SENATI が供与する。

5.2 人材：

5.2.1 日本人専門家：

首席顧問(日本人顧問団長)	美 浦 重 俊
調 整 員	安 井 龍
職業訓練専門家	海 前 嘉 明
一般機械専門家(整備)	
” ” (旋盤)	山 見 豊
自動車整備専門家	田 代 治 徳
電気専門家	
電子専門家	
溶接専門家	

5.2.2 ペルー側カウンターパート

プロジェクト長	ホセ・プスタマンテ
訓練部長	ビルヒリオ・トーレス
訓練校長	アンヘル・タラベラ
普及診断課長	クレメンテ・エスカランチ
自動車整備	サルバドール・モントーヤ
一般機械	オルヘル・ゴンサレス
電 気	フレディ・エレラ
電 子	アダルベルド・ソトマヨール
溶 接	オスワルド・アラウホ
総 務	エディルベルト・トーレス

5.2.3 秘書

秘書 西野勝子  
" メリーナ菊川

注：SENATIは必要に応じて、指導員及び事務員を任命する。

6. 評価

次の方式で実施する。

- 6.1 通常、日本ミッション団長及び訓練部長が実施。
- 6.2 四半期に、プロジェクト長としての地域事務局長が、日本ミッション団長とともに実施する。
- 6.3 毎年、合同委員会が実施する。



ANTEPROYECTO

\*\*\*\*\*

DE

\*\*\*

PLAN OPERATIVO - 1985

\*\*\*\*\*

PROYECTO DE COOPERACION TECNICA DE PERÚ Y JAPÓN EN  
EL CENTRO DE ENTRENAMIENTO VOCACIONAL DE SENATI -  
ZONAL SUR.

SEGUNDA ETAPA

\*\*\*\*\*

AREQUIPA NOVIEMBRE DE 1984

## 1.- PRESENTACION

El Anteproyecto del Plan Operativo 1985 para el Proyecto de cooperación Técnica de Perú y Japón en el Centro de Entrenamiento Vocacional del SENATI - Zonal Sur, se ha elaborado en forma conjunta por personal peruano y japonés.

aspecto muy importante y prioritario que se ha logrado es la fijación de objetivos específicos a alcanzar y en función de los cuales se deben orientar las acciones a realizar.

También, para la programación de acciones, se ha tomado como información la contenida para 1985 en el Cronograma del Plan Operativo de Cinco Años.

Se ha intentado describir, en forma detallada, cada una de las acciones a realizar; pero para algunas de ellas no ha sido posible hacerlo, ya que se trata de acciones complejas, las cuales requieren a su vez de un plan específico que permita orientar el trabajo.

La estructura del Plan Operativo comprende los antecedentes de la Cooperación Técnica entre el gobierno japonés y el SENATI; los objetivos; el programa de acciones; los recursos económicos y humanos; el cronograma y los lineamientos de evaluación.

## 2.- ANTECEDENTES

La Cooperación Técnica entre el Gobierno Japonés y el Servicio Nacional de Adiestramiento en Trabajo Industrial, Zonal Sur del Perú, se inició en el mes de enero de 1974 con la firma del Acuerdo de Cooperación Técnica por ambas partes y continúa a la fecha, teniendo por tanto 10 años y 10 meses de duración.

En él existen dos Etapas:

LA PRIMERA, que se inicia en 1974 y finaliza en mayo de 1984, en el sistema de Cooperación mediante Expertos Indi

viduales, de los cuales llegaron 13 para trabajar por un período de 2 ó 3 <sup>años</sup> /, cada uno de ellos en diferentes épocas.

LA SEGUNDA, que se inicia el 31 de mayo de 1984, a solicitud del Gobierno Peruano, con un Proyecto de Cooperación Técnica, para alcanzar los objetivos que ha continuación se detallan y que tendrá una duración de 5 años.

### 3.- OBJETIVOS

- 3.1 Elevar el nivel de capacitación de los jóvenes y trabajadores de la Región Sur del Perú, en función del desarrollo actual y futuro.
- 3.2 Ampliar la capacidad instalada del SENATI Sur para atender las necesidades de la Industria y otras actividades económicas de la Región.
- 3.3 Actualizar e impartir conocimientos tecnológicos y fomentar normas de Seguridad e Higiene Industrial como parte del proceso de Capacitación.
- 3.4 Consolidar y mejorar los Programas de Aprendizaje y de P.T.S. regular para cada una de las Ocupaciones Específicas de los Grupos Ocupacionales de Mecánica General, Mecánica Automotriz, Construcciones Metálicas, Electricidad y Electrónica.
- 3.5 Establecer un mecanismo de transferencia tecnológica permanente y uniforme para el personal de Contrapartes peruanos, a través de la Cooperación Técnica, utilizando todos los medios modernos que estén al alcance a fin de:
  - Reestructurar científicamente los programas educativos.
  - Elaborar manuales de tecnología y taller.

- Brindar asesoría técnica.
- Brindar asesoría para el uso y mantenimiento de equipos y maquinaria de cada uno de los talleres de capacitación.

#### 4.- ACCIONES

Para alcanzar los objetivos propuestos, en 1985 se deben cumplir las siguientes acciones:

##### 4.1. PREPARAR LOS TALLERES PARA LA CAPACITACION:

###### 4.1.1. REFORMAR LA ARQUITECTURA:

- General en todos los Talleres:  
Adecuar e implementar un/<sup>aula</sup> una sala de Instructores, un almacén de materiales y sala de herramientas.
- En el Taller de Mecánica Automotriz:
  - . Construir laboratorios, almacenes, sala de Instructores, almacén de herramientas, aula y servicios higiénicos.
  - . Construir un ambiente para la ubicación de las compresoras de aire y un lugar para lavar carros fuera del taller.
- En el Taller de Mecánica General:
  - . Eliminar pared para anexar ambiente que actualmente ocupa el taller de capacitación.
  - . Construir protección para evitar entrada de polvo.
- En el Taller de Electricidad:
  - . Construir protección para evitar entrada de polvo.
- En el Taller de Electrónica:
  - . Construir protección para evitar entra-

da del polvo en área del Taller de Con  
troles Industriales.

- Preparar ambiente para ubicar nuevos e  
quipos de computación.

- En el Taller de Construcciones Metálicas:

- Eliminar pared para anexar ambiente que  
actualmente ocupa el Taller de Mecánica  
Automotriz.

4.1.2. PREPARAR LA MAQUINARIA Y EQUIPOS

4.1.2.1. PLANEAR LA UBICACION

Comprende la elaboración de los -  
lay-out, correspondientes para ubi  
car la maquinaria y equipos nuevos,  
los equipos antiguos que deben que  
dar, especificando los puestos de  
trabajo y determinando la nueva ca  
pacidad instalada en los siguien  
tes talleres:

- \* Mecánica Automotriz
- \* Mecánica General (Mantenimiento  
y Torno)
- \* Electricidad
- \* Electrónica

4.1.2.2. RECEPCIONAR Y CHEQUEAR

Comprende la recepción de la maqui  
naria y equipos donados por el Go  
bierno del Japón y que se recibi  
rán en 1985, las mismas que una vez  
desembaladas deben ser chequeadas -  
en sus cantidades, componentes y es  
tados, debiendo quedar registradas  
en los inventarios respectivos.

#### 4.1.2.3. INSTALAR

Comprende la ubicación de la maquinaria y equipos en los lugares especificados en los lay-out, efectuar su montaje, el anclaje si fuera necesario, hacer las conexiones eléctricas y otros, verificar su funcionamiento.

Para la instalación de la maquinaria de Mecánica Automotriz y Mecánica General (mantenimiento y Torno), está prevista la venida de técnicos de las fábricas proveedoras.

#### 4.2. CAPACITAR A LOS APRENDICES Y TRABAJADORES

##### 4.2.1. ASÉSORAR LA PROGRAMACION DE LAS ACTIVIDADES

En base a la revisión y análisis de los programas de Pre-Aprendizaje, Aprendizaje y Perfeccionamiento de Adultos (P.T.S.) Regular, así como de las estructuras curriculares correspondientes se efectuará la programación de actividades para cada especialidad, debiendo quedar especificado para cada caso la participación que le toca a los expertos japoneses y a los contrapartes peruanos en lo que concierne a la implementación de las acciones programadas.

##### 4.2.2. EJECUCION DE LA CAPACITACION

Los expertos japoneses participarán activamente, conjuntamente con los contrapartes peruanos, en la ejecución de las acciones para el Aprendizaje y P.T.S. Regular, teniendo como metas previstas las siguientes:

<u>OCUPACIONES</u>	<u>APRENDICES (*)</u>	<u>TRABAJADORES/ CURSO (**)</u>
*Mecánica General (Mantenimiento)	12	36
*Mecánica General (Torno)	12	36
*Mecánica Automotr	12	36
*Electricidad	12	36
*Electrónica	12	36
TOTAL:	60	180

NOTA: No está considerada la ocupación de -  
Construcciones Metálicas, ya que re -  
cién trabajará dentro del Convenio a  
partir de 1986.

(\*) La meta se concluye en el término de -  
dos (2) años.

(\*\*) Son 3 cursos por ocupación que se desa  
rrollarán en forma secuencial para gru  
pos de 12 trabajadores y con una dura  
ción de 90 horas cada uno.

#### 4.3. CAPACITAR A LOS CONTRAPARTES PERUANOS

Esta acción comprende dos etapas secuenciales:

4.3.1. La primera etapa que se ha iniciado en 1984  
y debe concluir el 28.02.85 y tiene que ver  
con el estudio de las metodologías y las tec  
nologías utilizadas en la actualidad en lo -  
que concierne a los métodos de enseñanza, mé  
todos de trabajo, maquinarias y equipos uti  
lizados en el Aprendizaje y en el P.T.S. Regu  
lar, en términos generales y en las diferen  
tes ocupaciones en forma específica.

4.3.2. La segunda etapa que se iniciará a partir del  
01.03.85 y que comprende la capacitación pro

piamente dicha de los contrapartes peruanos y que se procurará se efectúe en forma sistemática en las formas individual y/o a través de charlas y seminarios, con programas pre-establecidos.

Un aspecto específico de la capacitación de contrapartes peruanos es el referido a becas de perfeccionamiento en el Japón, para lo cual debe tenerse en cuenta las necesidades detectadas en la primera etapa y en función de ello proceder a la selección de los candidatos para luego hacer la gestión correspondiente, prepararlos en el lenguaje (Japonés e/o Inglés) y proceder a la ejecución de la beca.

NOTA: En la actualidad se encuentran haciendo uso de becas de perfeccionamiento en el Japón, los siguientes Instructores:

- \* Sr. Leonidas Manrique, de Mecánica - General.  
01.04.84 al 30.03.85.
- \* Sr. Edilberto Olazabal, de Mecánica - General
- \* Sr. Francisco Ortiz, de Mecánica Automotriz.  
25.10.84 al 03.08.85.

#### 4.4. PREPARAR LOS MATERIALES DE ENSEÑANZA

Esta acción comprende la realización de dos tipos de trabajos:

- 4.4.1. Preparar los Manuales para la Operación de las Máquinas y Equipos. Para cada tipo de Unidad debe elaborarse el correspondiente Ma-



nual de Operación, que básicamente debe comprender las siguientes partes, con el objeto de sistematizar el procedimiento:

- \* Funciones de la Máquina
- \* Características Generales y Específicas
- \* Desarrollo de la secuencia operativa (tare - reas y operaciones).
- \* Esquemas y Diagramas
- \* Cuadro de descripción de fallas
- \* Recomendaciones generales sobre seguridad para el operador y equipos.
- \* Normas para el Mantenimiento.

La acción comprenderá sólo a las máquinas y equipos donados por el Gobierno del Ja pón y que sean instalados durante la vigen - cia del presente Plan Operativo.

#### 4.4.2. PREPARAR LOS MANUALES PARA LA INSTRUCCION

Partiendo de la revisión de los manuales exis - tentes (Unidades Didácticas Autoeducativas - UDAS), se dará prioridad a la preparación de manuales faltantes para luego proceder al me joramiento de los existentes. Esta acción es de carácter permanente y para el presente - Plan Operativo debe hacerse un Programa de - trabajo específico que comprenda a todas las especialidades.

### 5.- RECURSOS

5.1. ECONOMICOS: Los que otorguen el Gobierno Japonés y el SENATI.

5.2. RECURSOS HUMANOS:

5.2.1 EXPERTOS JAPONESES:

- Jefe Asesor (Jefe de Misión)-Ing. Shigetoshi  
Miura.

- Coordinador -Lic. Shigemi Yasui
- Experto Entrenamiento Vocacional -Ing. Yoshiaki Umimae
- Experto en Mecánica General(Manto)
- Experto en Mecánica General(Torno)-Ing. Yutaka Yamami
- Experto en Mecánica Automotriz -Ing. Harunori Tashiro
- Experto en Electricidad -
- Experto en Electrónica -
- Experto en Construcciones Metálicas.

#### 5.2.2. CONTRAPARTES PERUANOS

- Jefe de Proyecto -Ing. José Bustamante Ch.
- Jefe de Capacitación -Ing. Cirilio Torres T.
- Jefe de Unidad Operativa -Sr. Angel Talavera V.
- Jefe de Promoción y Diagnóstico -Sr. Clemente Escalante
- Mecánica Automotriz -Sr. Salvador Montoya
- Mecánica General -Sr. Olger González
- Electricidad -Ing. Fredy Herrera L.
- Electrónica -Ing. Adalberto Sotomayor
- Construcciones Metálicas -Sr. Oswaldo Araujo
- Apoyo Administrativo -C.P.C. Edilberto Torres

#### 5.2.3. APOYO SECRETARIAL

- Secretaria -Sra. K. Nishino
- Secretaria -Sra. M. Kikugawa

NOTA: El SENATI designará a otro personal de instructores y de apoyo de acuerdo a necesidades.

#### 6.- EVALUACION

Se realizará de la siguiente forma:

- 6.1. En forma permanente a cargo del Jefe de la Misión Japonesa y el Jefe de Capacitación Zonal.
- 6.2. Cuatrimestralmente, a cargo del Director Zonal, en su calidad de Jefe del Proyecto, conjuntamente con el Jefe de la Misión Japonesa.
- 6.3. Anualmente, a cargo del Joint Comitee.

7.- OPERACIONES DEL PLAN OPERATIVO 1987

1985 年度活動計画

OCCUPACIONES:

MECANICA: MACHINARIA (M) 自動車整備  
 MECANICA GENERAL (MAMTO) (MI) 一般機械(整備)  
 MECANICA GENERAL (TORNO) (MII) " (旋盤)  
 ELECTRICIDAD (EL) 電気  
 ELECTRONICA (ER) 電子  
 CONSTRUCCIONES METALICAS (CH) 溶接

職 種

- A P

養成訓練

在職者訓練(主コース) - P R

MODALIDAD : APRENDIZAJE (AP)  
 P.T.S. REGULAR (PR)

事 業	A	C	C	I	O	N	E	S	E	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D
PREPARAR LOS MATERIALES DE ENSEÑANZA 教材の作成	REFORMAR LA ARQUITECTURA 実習場改造									(A-MI-MII)		(EL-ER)								
	PLANEAR LA UBICACION DE MAQUINARIA 本 業 Y EQUIPOS 機材配置計画									(A-MI-MII-EL-ER)										
	RECEPCIONAR Y CHEQUEAR MAQUINARIA 機材 検 収																			
CAPACITAR A LOS TRABAJADORES 訓練生訓練	INSTALAR MAQUINARIA 機材 据 付													(A-MI-MII-EL-ER)						
	ASESORAR LA PROGRAMACION DE LAS ACTIVIDADES 訓練計画作成											(AP-PR)								
	EJECUTAR LA CAPACITACION 訓練実施																			
CAPACITAR A LOS TRABAJADORES PERUANOS カレンダール訓練	METODOLOGIA: 現行訓練方法調査・検討																			
	ESTUDIAR LOS METODOS VIGENTES TECNOLOGIA: 現行技術・技能調査・検討									(A-MI-MII-EL-ER)										
	ESTUDIAR LA TECNOL. VIGENTE RELACIONADA CON: METODOS DE TRABAJO, MAQUINAS Y EQ. CAPACITAR: 訓練実施									(A-MI-MII-EL-ER)										
PREPARAR LOS MATERIALES DE ENSEÑANZA 教材の作成	-EN FORMA INDIVIDUAL Y/O A TRAVES DE CHARLAS Y SEMINARIOS. 個別及び集団																			
	-BECAS: 日本での研修																			
	*SELECCION 選考 *CURSILLO DE ENGAJE 語学訓練 *GESTION 手続開始 *EJECUCION 研修実施									(A-MII)										
PREPARAR LOS MATERIALES DE ENSEÑANZA 教材の作成	MANUALES PARA LA OPERACION DE MAQUINAS Y EQUIPOS 機械設備オペレーションマニュアルの作成																			
	MANUALES PARA LA INSTRUCCION インストラクションマニュアルの作成																			

JICA